

# 「地域とともに，笑顔があり元気な生徒の育成」

～コミュニティ・スクールの取組～

## 津山市立津山東中学校

### 1 本校及び学区の概要



- (1) 生徒数 636 名
- (2) 学級数 26 学級  
(内特別支援学級 8 学級)
- (3) 教職員数 72 名
- (4) 所在地 津山市押入 1110 番地

本校は昭和 51 年に，津山市立鴨川中学校・国分寺中学校・東中学校の 3 校を統合し，「津山市立津山東中学校」として創設された。学区は，津山市の東方に位置し，7 つの小学校区にわたる広範な地域を占める。古くは出雲街道が栄え，国道 53 号，170 号，J R 姫新線，因美線が通る交通の要地である。もとは J R 東津山駅前の商業地域を除いて，内陸盆地に水田が広がる農村地域であった。昭和 49 年中国自動車道の開通により，学区中央部に津山インターができ，関西経済圏との結びつきが強まり，3 つの工業団地がつくられ，企業立地がすすむにつれ，内陸工業地域として発展してきた。それに伴って大型店舗やコンビニエンスストアなどの進出，大小の住宅団地ができ，農村地域の市街化が進んでいる。

### 2 学校経営方針

#### (1) 学校教育目標

「地域とともに，笑顔があり，元気な生徒の育成」

##### ① めざす学校像

- ・生徒の夢・目標の達成を支援する学校
- ・生徒の活動を中心に活力がある学校
- ・地域とともにある学校（コミュニティ・スクール）

##### ② めざす生徒像

- ・自立して，自分の将来の夢や希望を見つけていく生徒
- ・自信と誇りをもって，前向きに粘り強く挑戦する生徒

## (2) 本年度の研究主題

「自立した生徒の育成」

～集団づくりをもとにして～

これまで、学校行事や特別活動で、生徒が主体的に活動できる取組を積極的に取り入れ、また、SSTなどのスキル学習により、人間関係づくり、集団づくりに取り組んできた。しかし、校内のSWOT分析から、「コミュニケーションをとるのが苦手」「自己解決能力が低い」「自己肯定感が低い」生徒が多いという課題があることから、自立した生徒の育成を目指していくこととした。そして、自立した生徒に育てるには、自ら主体的に考え行動する機会、場面を、授業や特別活動で設定することが必要であることから、今年度は、全員公開授業による授業参観交流の活性化、課題設定などを協議するための定期的な教科会の充実を図るとともに、ソーシャルスキル教育を軸とした集団づくりに取り組んでいる。

本校は、令和3年度より津山市で最初に学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとしてスタートした。地域全体で子どもたちを支援し、子どもたちの自己肯定感の向上、コミュニケーション能力を育んでいくために、学校と地域が連携して取り組んでいる。今回は、コミュニティ・スクールについての本校の現在の状況を紹介する。

## 3 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）について

### (1) 設置に向けて

令和2年度にコミュニティ・スクール準備委員会を設置し、協議を重ねていった。この中で、組織及び学校運営協議会委員の検討、保護者、地域への周知方法等について協議した。岡山大学大学院教育学研究科の熊谷慎之輔教授を講師に招き、「コミュニティ・スクールの意義と今後のあり方」について、教職員、保護者、地域の方へ講話をしていただくとともに、子どもの健全育成のために学校・地域・保護者ができることについて意見交換を行った。

### (2) 令和3年度の学校運営協議会の実施内容

【第1回】 ・委員委嘱状交付 ・学校運営協議会規則 ・会長、副会長選出

・学校経営方針の説明、承認 ・年間計画の説明 ・授業参観

・コミュニティ・スクール開校式

【第2回】 ・今後の具体的な活動の協議（生徒会役員の参加）

【第3回】 ・学校経営中間報告 ・学力、学習状況調査報告 ・具体的な活動

【第4回】 ・学校評価アンケート ・学校経営等の評価 ・次年度の組織

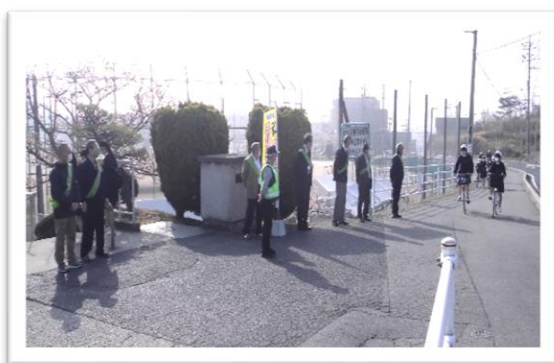
・教職員の任用等

- 【第5回】 ・今年度の反省及び次年度の活動計画 ・次年度の学校経営方針（案）  
 ・次年度の委員選出

(3) 具体的な取組

① あいさつ運動

毎月10日、25日の7:40~8:15に、学校運営協議会委員と生徒会役員が正門付近であいさつ運動を行っている。PTAは、各地区の交通査察場所にて、生徒の登校指導に協力していただいている。加えて、令和4年度からは、PTAとも連携し、学級ごとに割り振った期間中に、保護者の方にも正門付近でのあいさつ運動に参加していただいている。



② 公民館等との連携（ボランティア活動等）

公民館を中心に、中学生が地域の方と交流し、活躍できる講座を積極的に設定していただいた。講座の実施までの主な流れとしては、まず、中学生にボランティア募集のチラシ（右図参照）を配布。次に、ボランティアに応募した中学生との打ち合わせを行い、詳細決定後に、小学生や地域に案内チラシを配布するという流れで、実施した。

また、コミュニティ・スクールがスタートしたことをきっかけに、学区内の7つの公民館長が月1回会合（公民館長会）をもち、情報交換も行っている。

中学生希望者による公民館主催講座

**募集**

小学生にリコーダーを教えて頂けませんか？

広野小学校3年生以上の児童にリコーダー演奏を教えてくださる方を募集しています。

無償でのボランティアですが、ご協力をよろしくお願ひします。

指導内容： 指使いの指導。（リコーダーをご持参ください）リコーダーの演奏を楽しむ。

指導方法： 一緒にリコーダーを持ちながら、指の使い方や息の吹き方等を説明していただきます。難関に難関な曲が吹けるようになると、小学生も喜ぶと思います。

場所： 広野公民館

日時： 12月5日 日曜日  
午前10時30分～11時30分  
(集合時間 10時00分)

中学生希望者による公民館主催講座 申込書	
申込者氏名	申込者住所
津山東中学校	年 月 日
	〒 (郵便番号)

※お申し込みは必ずが申込書を津山東中学校にご届出ください。

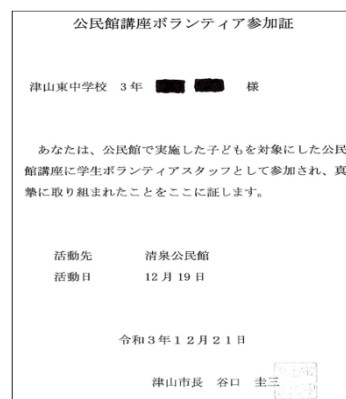
令和3年度に実施した活動は、以下のようなものである。（計画後、新型コロナウイルス感染症の影響で、中止したものも含む）

- 【7月】・子ども教室（広野公民館） ・陶芸教室（大崎公民館）  
 【8月】・子ども教室（広野公民館） ・夏休み学習教室（大崎公民館）  
 ・絵画指導教室（津山東公民館）  
 【11月】・パソコン教室（大崎公民館）

- 【12月】・リコーダー指導, 子ども教室 (広野公民館) ・サッカー教室 (清泉公民館)
- 【1月】・パソコン教室 (津山東公民館) ・吹奏楽演奏会 (成名公民館)
- 【2月】・ジュニアティーチャー (リコーダー, ダンス, 卓球, 絵) (高野公民館)
- 【3月】・子ども教室 (広野公民館) ・卓球教室 (津山東公民館)

ボランティアに参加した生徒は、右のような「ボランティア参加証」を受け取った。

この他に、中学校で行っているベルマーク収集の回収ボックスの設置, 美術部の作品の展示など, 地域交流の場である公民館に協力をしていただいた。



### ③ 放課後学習サポート

月2回程度, 水曜日の放課後を学年別に実施日を割り振り, 15:00~16:00の1時間を放課後学習として, 学習支援を行った。

各学年 50名程度が参加し, 個人の課題学習やクロームブックを活用して, 学習に取り組み, 生徒の支援をしていただいた。

今年度も「じっくりコース」(学びポケット navima を活用した復習), 「課題コース」(わからないところなど, 自分の課題に取り組む), 「資格取得コース」(漢検, 英検などの資格取得に向けて取り組む) の3つのコースを設定し, 実施している。



### ④ その他

登下校での交通安全の意識向上のための看板設置 (左下写真), 保護者送迎で凸凹していた砂利駐車場の整地 (右下写真) など, 地域の支援をいただいている。



### (4) 成果と課題

○あいさつ運動は, 以前より関係団体により行われていたが, コミュニティ・スクールの

スタートにあわせ、さらに意識が高まり各地域で実施されている。

- 公民館を中心に、学習、スポーツ、音楽、絵画などで中学生がジュニアティーチャーとして、小学生へ教えるなど、中学生が活躍する機会を設定していただき、小学生、地域の方とのよい交流の場になっている。そして、この活動の中で地域の方から「ありがとう」と声をかけられることで、参加した中学生の自己有用感も高くなっている。また、参加した小学生が、中学生になったときには逆の立場でまた参加するというように、良いループが発生することが今後期待できる。
- 放課後学習は、個別指導を中心に行っているため、学習支援ボランティアの確保が必要であるが、中学生の学習内容を教えるというハードルの高さから、実際には集まりにくいことが課題である。
- 年間を通して学校公開としているが、実際に地域の方が来校され、生徒の様子を参観し、交流する機会はまだまだ少ないのが現状である。今後、来校していただくための機会をどのように設定していくかが課題である。

#### 4 おわりに

コミュニティ・スクールが始まり、今年度が2年目であり、また、新型コロナウイルス感染症の影響のため、学校行事及び地域の行事において中止や規模の縮小により計画通りに活動ができない中、試行錯誤しながら取り組んでいる状況である。

変化が激しい現在の社会において、その変化に対応し、課題に対して自分で解決していく力が必要である。そのためには、まわりの人とコミュニケーションをとり、連携して対応する力を生徒に育成することが大切である。学校での行事や特別活動、また、地域の行事など、さまざまな体験や経験を通して、こうした力を育成できるように今後も地域と連携して取り組み、学校教育目標である「地域とともに、笑顔があり、元気な生徒の育成」を目指していきたい。